

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500302		
法人名	株式会社 トリア		
事業所名	グループホーム トリア吉野町		
所在地	岐阜県各務原市蘇原吉野町3丁目43番1		
自己評価作成日	令和4年1月10日	評価結果市町村受理日	令和4年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2190500302-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和4年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「Always Say Yes!」の基本方針のもと、あきらめず利用者様本人の意向をできる限り叶えられるよう、利用者様、ご家族様の心に寄り添い、全職員が一生涯懸命考え、柔軟な対応を心掛けている。
 ・少しでも楽しく、笑顔で、「自由に暮らせる家」を目指している。
 ・最期まで、安心して家(トリア吉野町)での生活を送って頂けるよう、看取り介護も行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域交流と健康管理、意思の尊重を重点とする理念を掲げ、職員がその考えを共有して業務を行なっている。コロナ禍により運営推進会議は書面で実施している。会議案内を参加者に手渡しなどで提出して意見をもらい、それを事業所の対応とともに詳細に議事録にまとめて、関係者に配布している。利用者の終末期には事業所での看取りが可能で実施もしている。利用者の居室入口に氏名ではなくその部屋ごとに花の名などを掲げて、職員間の会話時にはその名を使い、対象の利用者名が他の利用者にはわからないようにしている。入浴は利用者の希望する時にいつでも可能である。毎日入る利用者もいる。現在は利用者の外出がむずかしい環境にある。しかし、近隣を散歩をしたり、敷地内の駐車場で茶を飲んだりして、少しでも外の雰囲気を楽しむことができるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で地域との交流を大切にし健康管理を行いつつ、個人の意思を尊重して柔軟性のあるサービス提供に努めるという理念に基づき、職員の目に止まる所に貼り、利用者様にとって何がいいのか確認をして業務に当たっている。	理念を、玄関先及び1階と2階のキッチンの目のつきやすいところに貼り、日頃から理念を振り返りながら業務に取り組んでいる。又、職員会議にて理念について話し合い、職員間での共有と実践をはかっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の影響により、外出をほぼしていない状況のため、日常的な交流はできていないも、施設周辺の散歩の際、通りかかる方へのあいさつをしている。	コロナ禍により地域との交流は減っている。それでも、事業所の敷地外を散歩して、近隣の方々に挨拶をし、言葉も交わしている。大学との共同レクリエーションで利用者をモデルにファッションショーを行なった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染症の影響により、地域住民との交流が困難な状況となっている。今年度も、高校からの実習生を受け入れ、利用者様と近隣に住んでいる学生との間で、地元の話等に笑顔が増える機会ができた。また、大学との共同レクで交流を深めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や行事の取り組みについて報告し、意見を頂き、その意見をもとにサービス向上を目指している。書面での会議ではあるが、意見をいただけるため、それを生かして現場での改善に活かしている。	4ヶ月毎に書面による会議を実施している。参加者に案内を手渡して意見を議事録にまとめ関係者に配布している。参加者の意見もあり高校実習生を受入れた。コロナ禍にあっても感染対策をし継続実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所、包括支援センターの担当者の方へ報告・相談を行い、指導や助言を頂いている。(電話やメール等で)後見人制度の活用や、生活保護者の対応等の相談・助言を頂いている。	運営推進会議の案内は市役所へ直に届けている。事業所の報告や相談、市からの助言は電話やメールで行なっている。各種書類の提出もメールのことが多い。指定更新についてもメールで相談をした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様一人一人の行動観察で可能な力を見守ること、必要な介助を行う事、巡視体制を整えて拘束をしないケアに取り組んでいる。スタッフへの勉強会も実施し、レポート提出での理解度の確認を行っている。	毎月安全対策委員会を開催して、資料を整え勉強会を実施している。職員は身体拘束に係るレポートを提出している。過去に利用者や家族の同意を得て癌患者につなぎ服を使用したことがある。改善策を検討して実施し、現在身体拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で、虐待について学習し、日頃スタッフ同士で抱えているケアの悩み等をその時々で共有することでスタッフのストレス緩和に努め虐待につながらないように心掛けている。また、利用者様のストレスへの観察も心掛けている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に補助人制度を利用されている利用者様がいるため、その際に学ぶことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書をもって説明し、質問等にも対応しながら理解・納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見をいただいた時には、内容を記録や申し送りにて職員に周知している。苦情や外部への発信が必要な時については、運営推進会議の場を活用し報告している。	利用者からは入浴時などに意見を聞いている。家族からはリモート面会や玄関での面会、好天日の青空面会、電話、ラインで意見を聞いている。意見は職員会議で報告し検討、記録して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には統括や管理者も出席し、職員ひとりひとりの意見を聴くよう努めている。また、普段より職員一人一人に声をかけコミュニケーションを図り意見交換をしている。毎月担当を決めレクリエーションを展開し、職員の考えに委ねている。	管理者は、他の職員と話しやすい関係にあり、日頃から意見や要望を聞いている。利用者への介護の方法や、レクリエーション、夜勤や有給休暇の取得などの勤務について、意見が出ている。職員会議でも意見を聞いて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年次昇給、資格所持者には資格手当を支給するなどその職員に応じて評価している。可能な範囲で、職員の働き方(休日等)に合わせて勤務の作成をするよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染症の影響により、外部研修を控えている。ただし、リモートでの参加が可能な内容については参加できるよう心がけたり、YouTubeにアップされているものを活用している。職員会議では、必要に応じて内部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のリモートでの施設部会に参加し、同業者との交流や情報交換を行っている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の様子を見に行き、入居確定時ご本人の施設生活への思いを確認するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階からご家族の思いに声に耳を傾け、納得・安心されるまで話し合いの機会を設け確認するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いに耳を傾け、その方の現状に合ったサービス検討を各職種の意見も踏まえながら柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な家事(掃除や洗濯たたみ、食後の片づけ等)、またはカレンダーめくり等、利用者様ができる事を役割として提供し職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向をご家族へ伝えることで、可能な範囲でご家族で叶えられることはお願いをしている(買い物等)。また面会を可能な範囲で行ない、談話する機会を少しでも設けている。(玄関先やリモートの活用)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に確認の上、ご本人の友人が面会に見えたり、お手紙のやりとりを行なっている。	入居時をはじめ、普段から、馴染みの人や場を利用者と家族から聞きフェースシートに記録している。コロナ禍により友人の訪問や利用者の外出はできないので、手紙やリモート、年賀状でやり取りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介に入り、空いた時間にリビングで談笑されている。また、声かけにて毎日、体操やレクリエーションを一緒にし利用者様同士がコミュニケーションを取れる様にしている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り介護にて亡くなられたご家族が、利用者様や職員の様子を気にして連絡をくださったり、他施設に変わられたご家族よりわからないこと等の問い合わせがあった際は親身に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人の思いに耳を傾け、また、表情や行動等も観察している。必要に応じて、ご家族からも話を聞いたり情報収集している。	利用者からは、日常的に思いや意向を聞いている。入浴時は利用者と職員が1対1になり聞きやすい。家族からは、スマホのリモートなどで聞いている。発言の困難な利用者からは表情や仕草から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に情報収集し、職員に周知している。また、その後の情報は申し送りや職員会議で報告し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に気付いたことや変化等を記録するようにし、それを読んで各スタッフ把握している。また、申し送りノートも活用し状況の変化など一人が得た情報であっても職員全員が共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフの意見やご本人、ご家族の声をケアマネージャーが総括してその都度見直しを行ないながら介護計画を作成している。また、介護記録のキーワード欄も活用し、日ごろからケアプランの内容を把握しながらケアできるように介護記録を記入している。	利用者と家族から意見を聞き、かかりつけ医と看護師、職員の意見を取り入れ、計画作成担当者が介護計画を作成している。モニタリングは介護職員が行ない、個人記録のキーワード欄に記載している。見直しは半年毎に、変化のあった時にはその都度行ない介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にキーワード欄をつくり、スタッフの気づきや利用者様の様子が少しでも見やすいものとなるよう努めて記入している。また、必要時は申し送りノートにも記入し職員が情報を共有し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出張理美容、病院受診や短時間の外出(現在は自粛中)など希望に合わせた支援を行っている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症の影響により、近隣ケアの行事が開催されておらず参加ができていない。近所のコンビニエンスストアへ買い物に行くことを楽しみにされている利用者様もみえる。(現在は実施しておらず。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、嘱託医による往診を受けているが、希望があれば他科の受診が出来るよう対応している。	入居前からのかかりつけ医を継続することもできるが、入居時には協力医に変更する利用者が多い。協力医の訪問診療が毎月2回実施されている。専門医療機関への受診は家族とともに職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の体調管理、服薬状況、状態観察など医療面の情報や、その他気づいた点も報告し、看護師の判断で適切に受診等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、ホームでの情報を書面にてお伝えし、また、地域医療連携室等に速やかに連絡を取り、現状の確認や退院前の調整を行っている。また、面会に行った際に経過を確認する等病院関係者ともコミュニケーションを取るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の生活の中で持病の症状等が悪化したり、変化のあった際は、早めの家族連絡を心掛けている。入居契約時に、終末期の対応についても説明を行なう。また、必要に応じて終末期に向けた方針を主治医・ご家族様・職員で話し合い、全職員に周知するよう努めている。	入居時に、重度化や終末期での事業所の方針を利用者と家族に説明し同意を得ている。事業所での看取りが可能であることも伝えている。利用者の状況変化時には協力医が家族に説明し、利用者と家族の意向を確認して、看護師と職員とも話し合いながらその後の支援を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	電話近くに緊急時フローチャートを置き、すぐ確認できるようにしている。マニュアルを作成し事態に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会にて、お互い災害時は連絡を自治会長にとる体制が構築できた。スタッフ間で定期的な避難訓練(夜間も含む)や避難方法・手順の確認を行っている。今後、地域の方も交えた訓練実施を課題とする。備蓄も水分・食品も少しずつ備えている。	避難訓練を毎年2回実施している。1回は消防署員の立会いのもとに通報訓練と消防訓練を行なっている。もう1回は夜間想定のもとに実施している。近隣住民の避難訓練への参加の声掛けはしているが、コロナ禍により住民の参加はない。	事業所の避難訓練への近隣住民の参加は、コロナ禍によりむずかしい。感染が収束した後に参加への声掛けをするとともに、住民参加を実現するために努力されることを期待したい。

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応については、入職時のオリエンテーションにて周知し、適宜、職員会議の場で話し合い注意している。また、日頃から一人一人にあった声掛けをするよう職員へ周知している。	居室への入室時はノックをし退出時は必ずドアを閉めている。声掛けは名字で、親しさを表す時には名で呼び掛けている。職員間の会話では、利用者が他の利用者に特定できないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の声に耳を傾け、日々の生活の中で自己決定できる事はして頂ける様促し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調等に考慮して、可能な範囲で希望に添う様になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時や入浴時の洋服等をご本人に選択していただいている。また、ピン止めやカチューシャ等お好みに合わせて使用されている。希望者に応じて出張理美容を依頼し利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は取り分けをしていただいたり、おしぼりを作っていただいたり分担して一緒に行かない、食後は食器を重ねたり、洗った食器を拭いてくださる等片づけも職員と一緒に協力して行っている。	食材を外注し、事業所で調理している。食事の準備と食後の後片づけを職員と利用者が一緒に行っている。献立は、利用者の希望を入れ変更することもできる。ホットケーキなどをおやつレクで作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは食材配達業者の立てたメニューを活用している。水分量が少ない時は、こまめに声かけをし促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	まずはご本人様に行っていただき、その時の能力や状態、意欲に合わせ介助が必要な場合は介助にて行っている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、いつもより間隔が長かったり、行かれていない時は、必要に応じて声かけを行ない、誘導している。立位困難な方でも、二人介助でトイレ介助を行い、可能な限りトイレでの排泄を勧めている。	排泄の自立している利用者にはパジャマの交換時に漏れがないか確認している。声掛けや誘導の必要な利用者には排泄チェック表を確認しながら介助している。おむつやリハビリパンツの利用者も可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し数日、排便がない場合は主治医・看護師に相談し対応している。また牛乳を飲んだり、体操にて運動するよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿って、毎日や一日おき、一番風呂や夕食前等一人一人に合わせて入浴していただいている。入浴が苦手な方も、ゆっくりお話をして安心して入浴していただける環境を作っている。	利用者の好きな時に入浴することができる。毎日入浴する利用者もいる。浴槽の湯は一人ひとり入れ替えている。機械式浴槽も使用している。ボディソープやシャンプー、リンスは利用者の好むものを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のほどよい活動をすすめ、夜間、良眠できるように促している。また、それぞれに就寝時間を決めてみえるため、それに合わせた就寝介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、未薬防止のため、内服の薬の数等は把握し、服薬介助時はダブル・トリプルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなことばかりではなく、苦手なことも皆さんでやることに楽しみを見出して頂けるように同じレクリエーションでも提供方法を工夫して行うよう心掛けている。また、ご家族様の協力もあり、レク用品等を活用して楽しめる時間を提供することを心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ、散歩、喫茶店など希望に合わせて外へ出る機会を少しずつ作っている。(現在はコロナウイルス感染症の影響により実施せず)ご家族が亡くなられた利用者様と職員で昨年近場で1泊旅行へ行きおいしい食事を食べに行く等もしている。	コロナ禍により外出が容易ではない。それでも敷地外の近隣を散歩をしたり、駐車場で茶を飲んだりしている。事業所は、コロナ感染の収束後にコンビニエンスストアとスーパーマーケットでの買物や、ドライブ、喫茶店、外食などの外出を予定している。	

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、買い物に出かけた際は、職員が所持し会計している。自己にて払える方には、その時だけ財布をお渡しし、そこから支払っていただく。(現在は、実施しておらず)スタッフが代行で、買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があればご家族様に電話をしご本人様と話をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に合わせた飾りをして季節感を楽しんでもらっている。	玄関やリビングに、一輪挿しに花を飾ったり、壁に大きな見やすいカレンダーを貼ったりしている。書初めの作品や節分の鬼など、利用者が製作した作品も飾っている。廊下の足元に照明があり、夜間に点灯して利用者の安全をはかっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置し、そこでのんびり過ごしたり、食事以外はリビングの椅子に自由に座り、そこで集まっている方同士で一緒に談話し過ごせる空間ができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から可能な範囲で使い慣れたものを持ってきていただき、過ごされている。	使い慣れた寝具類や家具を持ち込んでいる。テレビやラジオ、時計、家族写真、自身で製作した作品などを持って来て、少しでも以前の自分の部屋に近づけてくつろぐことのできる空間にしようとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がその方の心身状態を把握し、できることを小さなことからできるように環境を整えるように努めている。安全に事故なく日常動作が送れるよう見守っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500302		
法人名	株式会社 トリア		
事業所名	グループホーム トリア吉野町		
所在地	岐阜県各務原市蘇原吉野町3丁目43番1		
自己評価作成日	令和4年1月10日	評価結果市町村受理日	令和4年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2190500302-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で地域との交流を大切にし健康管理を行いつつ、個人の意思を尊重して柔軟性のあるサービス提供に努めるという理念に基づき、職員の目に止まる所に貼り、利用者様にとって何がいいのか確認をして業務に当たっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の影響により、外出をほぼしていない状況のため、日常的な交流はできていないも、施設周辺の散歩の際、通りかかる方へのあいさつをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染症の影響により、地域住民との交流が困難な状況となっている。今年度も、高校からの実習生を受け入れ、利用者様と近隣に住んでいる学生との間で、地元の話等に笑顔が増える機会ができた。また、大学との共同レクで交流を深めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や行事の取り組みについて報告し、意見を頂き、その意見をもとにサービス向上を目指している。書面での会議ではあるが、意見をいただけるため、それを生かして現場での改善に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所、包括支援センターの担当者の方へ報告・相談を行い、指導や助言を頂いている。(電話やメール等で)後見人制度の活用や、生活保護者の対応等の相談・助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様一人一人の行動観察で可能な力を見守ること、必要な介助を行う事、巡視体制を整えて拘束をしないケアに取り組んでいる。スタッフへの勉強会も実施し、レポート提出での理解度の確認を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で、虐待について学習し、日頃スタッフ同士で抱えているケアの悩み等をその時々で共有することでスタッフのストレス緩和に努め虐待につながらないように心掛けている。また、利用者様のストレスへの観察も心掛けている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に補助人制度を利用されている利用者様がいるため、その際に学ぶことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書をもって説明し、質問等にも応対しながら理解・納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見をいただいた時には、内容を記録や申し送りにて職員に周知している。苦情や外部への発信が必要な時については、運営推進会議の場を活用し報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には統括や管理者も出席し、職員ひとりひとりの意見を聴くよう努めている。また、普段より職員一人一人に声をかけコミュニケーションを図り意見交換をしている。毎月担当を決めレクリエーションを展開し、職員の考えに委ねている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年次昇給、資格所持者には資格手当を支給するなどその職員に応じて評価している。可能な範囲で、職員の働き方(休日等)に合わせて勤務の作成をするよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染症の影響により、外部研修を控えている。ただし、リモートでの参加が可能な内容については参加できるような心がけたり、YouTubeにアップされているものを活用している。職員会議では、必要に応じて内部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のリモートでの施設部会に参加し、同業者との交流や情報交換を行っている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の様子を見に行き、入居確定時ご本人の施設生活への思いを確認するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階からご家族の思いに声に耳を傾け、納得・安心されるまで話し合いの機会を設け確認するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いに耳を傾け、その方の現状に合ったサービス検討を各職種の意見も踏まえながら柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な家事（掃除や洗濯たたみ、食後の片づけ等）、またはカレンダーめくり等、利用者様ができる事を役割として提供し職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向をご家族へ伝えることで、可能な範囲でご家族で叶えられることはお願いをしている（買い物等）。また面会を可能な範囲で行ない、談話する機会を少しでも設けている。（玄関先やリモートの活用）		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に確認の上、ご本人の友人が面会に見えたり、お手紙のやりとりを行なっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介に入り、空いた時間にリビングで談笑されている。また、声かけにて毎日、体操やレクリエーションと一緒に利用者様同士がコミュニケーションを取れる様にしている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り介護にて亡くなられたご家族が、利用者様や職員の様子を気にして連絡をくださったり、他施設に変わられたご家族よりわからないこと等の問い合わせがあった際は親身に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人の思いに耳を傾け、また、表情や行動等も観察している。必要に応じて、ご家族からも話を聞いたり情報収集している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に情報収集し、職員に周知している。また、その後の情報は申し送りや職員会議で報告し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に気付いたことや変化等を記録するようにし、それを読んで各スタッフ把握している。また、申し送りノートも活用し状況の変化など一人が得た情報であっても職員全員が共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフの意見やご本人、ご家族の声をケアマネージャーが総括してその都度見直しを行ないながら介護計画を作成している。また、介護記録のキーワード欄も活用し、日ごろからケアプランの内容を把握しながらケアできるように介護記録を記入している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にキーワード欄をつくり、スタッフの気づきや利用者様の様子が少しでも見やすいものとなるよう努めて記入している。また、必要時は申し送りノートにも記入し職員が情報を共有し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出張理美容、病院受診や短時間の外出(現在は自粛中)など希望に合わせた支援を行っている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症の影響により、近隣ケアの行事が開催されておらず参加ができていない。近所のコンビニエンスストアへ買い物に行くことを楽しみにされている利用者様もみえる。(現在は実施しておらず。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、嘱託医による往診を受けているが、希望があれば他科の受診が出来るよう対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の体調管理、服薬状況、状態観察など医療面の情報や、その他気づいた点も報告し、看護師の判断で適切に受診等行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、ホームでの情報を書面にてお伝えし、また、地域医療連携室等に速やかに連絡を取り、現状の確認や退院前の調整を行っている。また、面会に行った際に経過を確認する等病院関係者ともコミュニケーションを取るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の生活の中で持病の症状等が悪化したり、変化のあった際は、早めの家族連絡を心掛けている。入居契約時に、終末期の対応についても説明を行なう。また、必要に応じて終末期に向けた方針を主治医・ご家族様・職員で話し合い、全職員に周知するよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	電話近くに緊急時フローチャートを置き、すぐ確認できるようにしている。マニュアルを作成し事態に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会にて、お互い災害時は連絡を自治会長にとる体制が構築できた。スタッフ間で定期的な避難訓練(夜間も含む)や避難方法・手順の確認を行っている。今後、地域の方も交えた訓練実施を課題とする。備蓄も水分・食品も少しずつ備えている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応については、入職時のオリエンテーションにて周知し、適宜、職員会議の場で話し合い注意している。また、日頃から一人一人にあった声掛けをするよう職員へ周知している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の声に耳を傾け、日々の生活の中で自己決定できる事はして頂ける様促し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調等に考慮して、可能な範囲で希望に添う様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時や入浴時の洋服等をご本人に選択していただいている。また、ピン止めやカチューシャ等お好みに合わせて使用されている。希望者に応じて出張理美容を依頼し利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は取り分けをしていただいたり、おしぼりを作っていたり分担して一緒に行かない、食後は食器を重ねたり、洗った食器を拭いてくださる等片づけも職員と一緒に協力して行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは食材配達業者の立てたメニューを活用している。水分が少ない時は、こまめに声かけをし促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	まずはご本人様に行っていただき、その時の能力や状態、意欲に合わせ介助が必要な場合は介助にて行っている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、いつもより間隔が長かったり、行かれていない時は、必要に応じて声かけを行ない、誘導している。立位困難な方でも、二人介助でトイレ介助を行い、可能な限りトイレでの排泄を勧めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し数日、排便がない場合は主治医・看護師に相談し対応している。また牛乳を飲んだり、体操にて運動するよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿って、毎日や一日おき、一番風呂や夕食前等一人一人に合わせて入浴していただいている。入浴が苦手な方も、ゆっくりお話をしながら安心して入浴していただける環境を作っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のほどよい活動をすすめ、夜間、良眠できるように促している。また、それぞれに就寝時間を決めてみえるため、それに合わせた就寝介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、未薬防止のため、内服の薬の数等は把握し、服薬介助時はダブル・トリプルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなことばかりではなく、苦手なことも皆さんでやることに楽しみを見出して頂けるよう同じレクリエーションでも提供方法を工夫して行うよう心掛けている。また、ご家族様の協力もあり、レク用品等を活用して楽しめる時間を提供することを心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ、散歩、喫茶店など希望に合わせて外へ出る機会を少しづつ作っている。(現在はコロナウイルス感染症の影響により実施せず)ご家族が亡くなられた利用者様と職員で昨年も近場で1泊旅行へ行きおいしい食事を食べに行く等もしている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、買い物に出かけた際は、職員が所持し会計している。自己にて払える方には、その時だけ財布をお渡しし、そこから支払っていただく。(現在は、実施しておらず)スタッフが代行で、買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があればご家族様に電話をしご本人様と話をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に合わせた飾りをして季節感を楽しんでもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置し、そこでのんびり過ごしたり、食事以外はリビングの椅子に自由に座り、そこで集まっている方同士で一緒に談話し過ごせる空間ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から可能な範囲で使い慣れたものを持ってきていただき、過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がその方の心身状態を把握し、できることを小さなことからできるように環境を整えるように努めている。安全に事故なく日常動作が送れるよう見守っている。		